

好奇心から育まれる 創造力

「電気屋で仕事をするおじいちゃんの影響もあって、幼稚園の頃からいろいろなものを作って遊んでいました」と、ものづくりの楽しさへのめり込むようになったきっかけについて話す鈴木朝陽くん。

これまで鈴木くんは、夏休みの課題に、『ペットボトル懐中電灯』を製作したりロボットサッカーの部品を組み立てたりと、いろいろな作品を手掛けてきました。

今回の入選作品である『高いところOKジョーロ』は、大きなジョーロのように見立てて切った木材を持ちやすいように加工し、ひもで先端のボトルを引っ張る仕掛けを施すことで、遠くへ水をあげることができるといふもの。

「誰も作ったことがないものを作りたいと思い、インターネットや本などを参考に作りました」と鈴木くんは楽しみに話します。

今回の受賞について鈴木くんは、「自信はなかったので受賞の連絡があったときはびっくりしました。自分の作った作品が評価されて本当にうれしかったです。また次も表彰されるようにがんばろうと思



▲入選作品『高いところOKジョーロ』

います」と話し、これからの意気込みを聞かせてくれました。

かたちにする難しさ

「アイデアをかたちにするのができたとしても、完成したものを実際に使ってみると、使いづらさを感じることもありました」と今までの作品を振り返る鈴木くん。作ったものに満足せず、向上心を持ってさらなる作品を生み出そうとしています。

家族から作品製作の要望を受けることもある登別の小さな発明家は、「ものづくりや科学が好きなので、将来は、機械を作る仕事をして、人の役に立てる発明がしたいです」と未来の自分に期待を込めました。



KIRARI

すず き あさ ひ
鈴木朝陽くん (桜木町)

全国から夏休みの研究やクラブ活動の成果などアイデアいっぱいの作品を募集する『第74回全日本学生児童発明くふう展』（公益社団法人発明協会主催）で、市内の小学校から唯一、入選を果たした鈴木朝陽くん。

子どもの創造力育成や発明くふうの楽しさを広めることを目的に、優れた発明くふう作品を表彰している同展で、7千585点の応募の中からの受賞となりました。

小学4年生の時に室蘭市青少年科学館の科学クラブに所属し、6年生の今は、ロボットサッカークラブへ所属。アイデアをかたちにする力を身につける鈴木くんは、ものづくりの楽しさや受賞の感想について伺いました。

誰も作ったことがないものを作り、人の役に立ちたい。

平成17年、登別市生まれ。11歳

開校40周年を迎えた青葉小学校で、クラブ活動『ものづくりクラブ』のクラブ長に就任。メンバーを引っ張りながら、12月に行われる小学校の展示会に向け、作品の製作に励んでいる。